

LINEで道路や公園の不具合情報を受け付け

芦 屋市は、管理する道路と公園の不具合情報をスマートフォンのLINEアプリで受け付ける制度を10月1日から開始した。重大事故につながる前にいち早く危険箇所をつかむため、かねてより情報提供の間口を広げたいと考えていた市が、利便性と利用者の多さからLINEでの運用を決めた。開始から1カ月でLINEでの情報提供は70件あったという。アスファルトの剥がれや歩道ブロックのズレなど軽微なものが多いが、中には早めに補修する方がよいものもあったとのこと。市の担当者は、「写真でだいたいの状況がわかるので、情報提供の時点で緊急性などの



LINEで情報提供のあった場所(写真上)と修復後(写真左)。

判断がしやすくなった」と制度の利点を話した。情報提供は、LINEのID検索で@ashiyashi5401を友だち追加することでできる。

ご近所限定 地域密着型SNS「マチマチ」

神 戸市は、地域コミュニティの活性化を目指し、9月14日に地域限定SNSを運営するマチマチ(東京都)と協定を結んだ。転入者やマンション住まいなど、地域とのつながりが薄い住民にSNSを通して交流を促す。同市では、単身世帯や共働きの増加により、各自治会や婦人会などの地域団体の担い手が不足。このままでは地域の弱体化につながりかねないと、他の自治体とも提携実績のあるマチマチとの協定締結を決めた。関西では初の取り組みだ。登録や利用は無料で、入会時に登録した住所から半径1km~10km程度までのユーザーが交流できる仕組み。保育園や

市政情報や防災情報のほか、習い事や病院などの情報交換が行われる。子育て世代から高齢者まで幅広く利用できる。



学校などの子育て情報、病院、飲食店の口コミなどの情報交換ができる。範囲外の投稿は見ることができないため、「ご近所さん」同士の地域密着型コミュニケーションが特徴だ。神戸市の担当者は、「今後は地域の団体やサークルからも、イベント情報などを発信できるよう働きかけていく。地域の活性化には住民同士の助け合いが重要。今まで地域に関わりがなかった方も、SNSの交流がきっかけで地域活動に参加してもらえれば」と話した。

甲山森林公園リニューアル 子育て世代に使いやすく

県 立甲山森林公園(西宮市)がリニューアルした。芝生広場やパークセンターを再整備し、授乳室や子どもトイレを備えるほか、工作室や調理室などを新設した。同公園全体の90%は樹林のままで、自然を活かした野鳥観察など、豊かな自然を満喫できる一方で、駐車場が少ない、乳幼児連れには



リニューアルしたパークセンター。約83ヘクタールの広い敷地には、そのほか展望台や運動広場、ハイキングコースなどもある。

歩きにくいなど、子ども連れの利用には課題もあった。兵庫県の担当者は、「今回駐車場25台分を新設し、ベビーカーで移動しやすい園路も整備できた。親子向けイベントも随時開催しているので、多くの子育て世代に遊びに来てほしい」と話す。

学童の対象年齢を6年生まで拡大

芦 屋市は、放課後に児童を預かる学童保育の受け入れ対象学年を、2019年4月から現在の小学4年生から6年生までに拡大する。2016年の児童福祉法改正により、学童事業の対象範囲が拡大されたことに対応するもの。

同市の児童数は年々減少しているものの、共働き世帯の増加などで学童保育への入会希望者が増え、教室が足りず待機児童が発生している。今回の対象年齢拡大と待機児童に対応するため、岩園小学校と浜風小学校の2校で学童の学級を増やす。また、定員を超える場合



今年の夏に朝日ヶ丘幼稚園の空き教室を利用して行われた学童。

には、児童を受け入れ可能な近隣校へタクシー等で送迎することも予定している。安定した事業運営を行うため、市内8校のうち4校で運営を民間業者に業務委託することも決めた。事業者は11月末に選定される予定。

公営と民営ともに目指すより高い質

民 間委託することに対し、保護者からは、支援員が変わることや送迎方法などに不安の声も出ている。一方で、民間事業者による運営を期待する声もある。主に待機児童を対象に、昨年と今年の夏休みに公立幼稚園の空き教室を利用して、民間事業者による受け入れを行った。利用した児童・保護者からは、児童の自主性を重んじる活動内容に、「満足した」という声も聞かれる。同市の担当者は「民間事業者による柔軟な勤務態勢で、延長や土曜日保育にも対応しやすくなるメリットもある。また、民間のノウハウも取り入れつつ、公営と民営で切磋琢磨しながら、より質の高い学童を目指す」と話した。

商店街の新しい価値・魅力を発信する「神戸お立寄りプロジェクト」

神 戸市内には240を超える商店街・小売市場が存在するが、後継者不足や利用者の減少など厳しい状況に置かれている。そこで神戸市は、老舗店の伝統の味や、人情味あふれる接客など原点にもどり「商店街・小売店がもつ本来の魅力」をPRするために「神戸お立寄りプロジェクト」を立ち上げた。

市内商店街・小売市場の商品を対象に応募を募り、わざわざ足を運んで手に入れたい20品を「お立寄り認定品」として選定した。選ばれたのは、亀井堂總本店の「神戸元町バターサンド」や丸武商店の「野菜コロケ」、BRANMA KOBEの「フェリコト」など創業100年の老舗からトレンドの人気店などの商品だ。選考にはお笑いタレント・小原正子さん、神戸北野ホテル総料理長・山口浩さん、落語家・桂三ノ助さんら神戸ゆかりの著名人も「お立寄り認定委員」として参加した。「神戸にもメディアで取り上げられる



ような全国のお取り寄せ品に匹敵する商品がある。そのことを市内外の方にもっと知ってもらえたら」と同プロジェクトの担当者は話す。

認定品は「神戸お立寄りハンドブック」に収録され、市の総合インフォメーションや認定店に設置。大賞を決める投票や、スタンプを5個以上集めると「お立寄りリスト」認定証が贈呈されるなど、買いまわりを楽しめるコンテンツが充実している。「地元神戸の銘品をきっかけに商店街・小売市場の新しい魅力にふれてもらえたら嬉しい」と担当者は話す。

スタンプラリーは2019年2月28日(木)まで実施。
問:市イベント案内・申込センター TEL078-333-3372

安全安心走行をめざす兵庫ハイウェイ

協力:兵庫県警察

高速道路は一般道と比較して、事故が発生した場合、被害が大きくなる可能性が高い。年末年始には、帰省や初詣などで高速道路等の交通量の増加や交通の流れが変化するため、交通事故の急増が懸念される。一人ひとりが高速道路の危険性を認識して安全に走行しよう。



【高速道路で安全に走行するために】

高速道路等では、

- 制限速度内の安全な速度で運転を
- 高速道路は一方通行
- 前車との十分な車間距離をとる
- 出発前には十分な点検・整備を
- 脇見運転をしない
- 異常事態発見時は通報にご協力を
- 道路情報板やパトロールカーに注意

の7項目の「ドライブマナー」を遵守し、交通事故防止に努めよう。

【万が一、高速道路上で止まってしまったら】

事故や故障でやむを得ず高速道路上で停止した場合は「緊急時の3原則」、

- 路上に立たない
- 車内に残らない
- 安全な場所に避難する

を遵守し、命を守るための行動を取ろう。そして、後続車に十分注意して発煙筒や三角停止板等を車の後方に設置することで、後続車に車が停止していることを知らせよう。